

大田原市 成果報告書

522 事業（平成 25 年度）の内

529 事業（平成 22 年度）の内

公共交通 市営バス

平成 25 年度

自 平成 25 年 4 月 1 日

至 平成 26 年 3 月 31 日

平成 22 年度

自 平成 22 年 4 月 1 日

至 平成 23 年 3 月 31 日

平成 27 年 11 月

公会計研究所

目次

1. 成果報告書について	2
2. 公共交通事業 成果報告書	4
2.1. 成果説明の部	4
2.2. 成果報告書 数値の参照元等	9
成果報告書 公共交通事業の市バス（参考 平成 22 年度）	11

はじめに

大田原市役所が何をしなければならないかを決めるのは、本来市民の皆様です。市民が必要としていることなら、何でも市役所の仕事になる訳ではありません。住民の同意が得られた後に、大田原市が行う仕事となります。

市民が、大田原市の作成する全ての資料を閲覧できるようになっても、合理的な判断ができる訳ではありません。市にはたくさんの仕事が委ねられ、膨大な資料があります。大田原市は、平成 25 年度の予算ベースで 522 の事業に予算がつけられ、561 名の一般職員がその事業を行っています。

民間では、商品に関心を持つ人だけが商品の取引に参加します。購入を検討する人は、商品を手に取り値札を確認します。

行政が行う事業は民間で行う取引よりも複雑になります。事業を提供する市と、そのサービスを受ける受益者の他に、資金を提供する市民が存在します。ごく一部の人の役に立つのであっても必要であるか否かを、市民が合理的に判断できるようにしなければなりません。市民の意思決定に有用な会計報告が、求められる理由です。

成果報告書は、大田原市が行う事業について、誰のためにどのようなサービスが、如何ほどの市民の負担で提供されているのかを明らかにします。市の行う事業について、市民の皆様に関心を持っていただき、その内容とコストを明らかにするのが成果報告書の役割です。

平成 27 年 11 月 30 日

公会計研究所 代表 **吉田 寛**

博士（政策研究）・公認会計士

1. 成果報告書について

成果報告書は、公会計研究所の会計原則の「有用性の原則」を受けて作成されます。平成 25 年度の大田原市の成果報告書は、予算のついた 522 の事業のうち、市営バスの運営について作成しました。成果報告書は、二つの要素から構成されます。一つは行政の提供するサービスの内容を示す成果説明の部です。もう一つは、そのサービスを提供するために発生したコストとそのコストを誰が負担したかを明らかにするコスト説明の部です。

それぞれの内容は次のとおりです。

成果説明の部

成果説明の部は、成果報告書で説明する各事業の概要を説明します。各年度始めに定めた成果の目標とその結果が対比される事が望まれます。今回の公共交通事業の市バスの成果説明は、生活環境課によるものです。

また、成果を示す指標として市バス各路線の料金別利用者数と通学に利用している学校名を記載しました。民間バス路線がある場合はその会社名を掲載しています。

コスト説明の部

コスト説明の部は、当該事業を行うために発生したコストとそのコストを誰が負担したかを示します。

発生費用の部では当該事業を行うために発生した費用を費目別に集計して計上しています。建物・構築物などの市民の資産を事業遂行に利用している場合には、当該資産の減価償却費相当金額を更新引当額として記載します。この報告書では、各路線に割当てられた車両毎の取得原価と取得年度を把握し、減価償却費相当金額を更新引当額として記載します。

費用負担の部では、誰が行政の費用を負担したかを明らかにします。費用負担は受益者負担額がある場合にはその金額を控除しました。この成果報告書では、市バスの利用者の支払った運賃となります。

市民の負担は、発生した費用から受益者負担額を差引いた金額です。県や国からの資金が充てられる場合もあります。これらの資金が市民

の納めた税金が原資であることから、市民の負担として合計表示しました。県からの資金を「県民として」、国からの資金を「国民として」と内書きします。

成果報告書

成果説明の部		成果を説明する	
成果の説明			
コスト説明の部			
発生費用の部			
人件費		A	
経費		B	
提供資金		C	
発生費用合計		A+B+C	=D
費用負担の部			
受益者負担			E
差引	市民の負担		D-E
	県民として(県からの補助金)		F
	国民として(国からの補助金)		G

2. 公共交通事業 成果報告書

2.1. 成果説明の部

平成 25 年度大田原市は 11 の市営バス路線及び黒羽地区でのデマンド交通を運行しています。平成 25 年度の市営バス及びデマンド交通の利用者数は、約 48 万 6 千人、運送収入は約 7,690 万円となっています。

大きな変更点は、平成 24 年 3 月に策定した「大田原市地域公共交通総合連携計画」に基づき、平成 25 年 4 月に大幅な路線の再編を実施しました。主な再編の内容は、民間路線バスである東野バスとの競合路線の解消、国際医療福祉大学のスクールバス化、及び黒羽地区への予約型デマンド交通の導入、さらには通学で利用していた小中学生が路線バスとは別の新たなスクールバスを利用するなど、市営バスの路線数を 15 路線から 11 路線に整理しました。

この再編より、民間バス会社と役割分担をすることで市営バスは主に比較的採算性の悪い公共交通空白地輸送を担うことになりました。

これにより、市営バス及びデマンド交通の利用者数は、再編前まで約 78 万 5 千人いましたが、そのうち約 17 万人が東野バスに、約 13 万人が大学のスクールバスに、数千人が小中学校のスクールバスにそれぞれ移行したことで、486,594 人と約 30 万人の減となりました。

市としては、利用者が減少したことにより運送収入が約 4,412 万円の減となったことは必然であり、逆に運行する路線が減ったことで、運行経費（地方バス路線維持対策費含む）を約 1,688 万円削減することができました。ただし、運行経費から運送収入を差引いた市民の負担としては、約 2,724 万円の増となりました。その理由として、このうち 1,330 万円は再編に伴い東野バスの系統が増えたことや、民間路線バスにおいても上限運賃制を導入したことによる補てんにより東野交通(株)への補助金が増えた影響であります。その他 1,394 万円は、平成 25 年度に再契約となった市営バス運行业務委託料の適正な見直しによる契約額の増が主な原因となっています。

このように大幅な路線の再編を行った結果、収支的にみると市民の負担額は増となってしまい、受益者 1 人当たりの市民の負担も増となりましたが、再編の軸となった競合路線が解消されたことで、市営と民間で重複していた系統の整理ができ、官民お互いに無駄なコストの削減が図ることができました。また、この再編により分かりやすい系統や運賃が設定され、利用者に対しては利便性が向上し、より充実した路線バスサービスが提供することができました。

公共交通

	平成 25 年度	平成 22 年度	市民の負担が 少ない路線	市民の負担が 大きい路線
	11 路線及び デマンド 交通合計	15 路線合計	金丸線	那須 塩原駅線
成果説明の部				
	(単位:人)			
利用者数計	1,327	2,150	5	735
定期利用者	864	1,613	2	529
利用時支払者	463	537	3	206
受益者 1 人当たり				
	(単位:円)			
市民の負担	429	232	2,129	206
受益者負担	158	154	178	160
コスト説明の部				
発生コストの部				
	(単位:円)			
公共交通運行費計	285,857,504	302,737,140	5,009,268	98,471,717
コスト負担の部				
市民の負担	208,962,804	181,719,340	4,622,019	55,410,989
受益者負担	76,894,700	121,017,800	387,249	43,060,728

端数処理をしているので合計額は必ずしも一致しません。

路線の再編により競合路線は、東野交通による運営に一本化されました。東野バスの利用者もこれにより大幅に増加しました。地方バス路線維持対策費の成果を、民間バスの利用者も含めて示すと次の様になります。

	(単位:人)	
一日あたり利用者		
市バス等利用者数	1,327	2,150
東野バス利用者数	836	151
利用者数合計	2,163	2,301

各路線の明細は次ページ以降に掲載します。

成果報告書

路線	佐久山・ 親園線	金田方面 循環線	野崎方面 循環線	那須 塩原駅線	大田原市 内循環線
利用者					
大人	1,466	2,229	6,922	31,682	56,106
高校大学生	3,349	281	2,421	230,772	68,177
小中学生	347	4,102	108	861	1,897
高齢者	2,330	3,707	3,274	5,056	9,336
利用者合計	7,492	10,319	12,725	268,371	135,516
一日あたり利用者数					
現金支払者	6	7	15	206	181
定期利用者	14	21	19	529	190
利用者数合計	20	28	34	735	371
運行目的、主な利用者等	通学・高等学校、 高齢者	通学・小学校、高 齢者	通勤・社員等	国際医療福祉大 学、那須赤十字 病院ほか	通勤・社員等、 大田原女子高等 学校
市バス利用毎のコスト負担					
受益者負担	137	106	151	160	167
市民の負担	1,455	1,105	813	206	249

コスト説明の部

発生コストの部

単位:円

生活環境課 人件費	506,606	506,606	506,606	506,606	506,606
運行業務委託費	6,441,397	7,113,846	6,449,217	61,072,758	38,574,974
バス運行経費	1,293,070	1,267,870	1,380,313	5,429,716	4,474,958
更新引当金繰入額	0	0	0	15,989,233	0
地方バス路線維持対策費	3,684,944	3,613,128	3,933,566	15,473,403	12,752,569
市営バス運行費計	11,926,017	12,501,449	12,269,703	98,471,717	56,309,107

コスト負担の部

現金収入	460,300	583,700	1,138,600	15,047,100	13,278,300
定期利用配賦額	567,411	514,971	786,745	28,013,628	9,354,914
路線収入	1,027,711	1,098,671	1,925,345	43,060,728	22,633,214
市民の負担	10,898,306	11,402,778	10,344,358	55,410,989	33,675,893

公共交通

金丸線	雲巖寺線	須賀川線	黒羽・ 佐良土線	蛭田・ 湯津上線	佐久山・ 野崎駅線	11路線 合計
567	5,057	1,380	415	1,902	426	108,152
1,589	23,645	547	540	3,560	912	335,793
3	123	2	145	578	15	8,181
12	1,658	745	506	2,232	231	29,087
2,171	30,483	2,674	1,606	8,272	1,584	481,213
3	17	3	1	9	1	449
2	66	4	3	13	3	864
5	83	7	4	22	4	1,313
国際医療福祉大 学、道の駅那須与 一の郷	観光客、高齢者、 通学・高等学校	通学・高等学校	湯津上温泉やす らぎの湯、なが わ水遊園	湯津上温泉やす らぎの湯	ふれあいの丘、 通学・高等学校	
178	154	154	136	143	160	160
2,129	457	3,549	7,617	1,650	5,352	383

単位:円

506,606	506,605	506,606	506,606	506,606	506,605	5,572,664
2,793,765	9,185,729	6,405,256	6,823,692	8,634,333	6,424,192	159,919,160
251,511	2,316,817	776,323	1,329,926	1,479,929	467,685	20,468,118
740,640	0	0	0	0	0	16,729,873
716,746	6,602,378	2,212,336	3,789,973	4,217,447	1,332,793	58,329,282
5,009,268	18,611,528	9,900,521	12,450,197	14,838,315	8,731,275	261,019,097
260,200	1,268,100	276,200	111,700	661,400	143,800	33,229,400
127,049	3,425,088	135,445	106,353	524,398	109,299	43,665,300
387,249	4,693,188	411,645	218,053	1,185,798	253,099	76,894,700
4,622,019	13,918,341	9,488,876	12,232,144	13,652,517	8,478,176	184,124,397

端数処理をしているので合計額は必ずしも一致しません。

成果報告書

路線	11 路線 合計	黒羽地区 デマンド交通	公共交通 合計	平成 22 年度 合計
利用者				
大人	108,152	5,381	113,533	125,148
高校大学生	335,793		335,793	501,943
小中学生	8,181		8,181	118,171
高齢者	29,087		29,087	39,497
利用者合計	481,213	5,381	486,594	784,759
一日あたり利用者数				
現金支払者	449	14	463	537
定期利用者	864		864	1,613
利用者数合計	1,313	14	1,327	2,150
運行目的、主な利用者等				
市バス利用毎のコスト負担				
受益者負担	160		158	154
市民の負担	383	4,616	429	232

コスト説明の部

発生コストの部	単位:円	単位:円	単位:円
生活環境課人件費	5,572,664	5,572,664	9,755,567
運行業務委託費	159,919,160	159,919,160	130,404,060
バス運行経費 ¹	20,468,118	20,468,118	75,282,038
更新引当金繰入額	16,729,873	16,729,873	42,270,160
地方バス路線維持対策費	58,329,282	24,838,407	83,167,689
市営バス運行費計	261,019,097	24,838,407	285,857,504
コスト負担の部			
現金収入	33,229,400	33,229,400	39,235,200
定期利用配賦額	43,665,300	43,665,300	81,782,600
路線収入	76,894,700	76,894,700	121,017,800
市民の負担	184,124,397	24,838,407	208,962,804
			181,719,340

端数処理をしているので合計額は必ずしも一致しません。

¹ 平成 22 年度のバス運行経費には、工事請負費 6,163,500 円を含みます。

2.2. 成果報告書 数値の参照元等

成果説明の部

- 利用者数 大人、高校大学生、小中学生、高齢者
平成 25 年度 市政年報 p.127 全路線乗車状況によりました。
- 一日当たり利用数 (端数処理をしているので合計額は必ずしも一致しません)

現金支払者数

平成 25 年度 市政年報 の使用料内訳 路線収入を 365 日で除した値を運賃 200 円で除し、利用の都度現金を支払う利用者数としました。

定期利用者数

一日あたり利用者数合計から現金支払者数を差引いています。

利用者数合計

平成 25 年度 市政年報 p.127 全路線乗車状況によりました。

市民の負担

市バスを運行するために発生した市営バス運行費計から、路線収入を差引いて算出した市民の負担です。

市バス利用毎のコスト負担

市バス利用者が、市バスを一回利用する毎に生じる費用を、各路線で受益者である利用者と、利用をしていない市民が負担する金額を示しています。

コスト説明の部

発生コストの部

- 生活環境課 人件費:
専従職員 1 名分及び兼務職員 1 名分の半分の人件費を計上し各路線毎に均等配賦しました。
- 運行業務委託費
バスの運行の委託については委託会社との契約に従い該当路線へ均等配賦しています。
また定期券・回数券の販売に係わる委託手数料および増便の委託料は、定期券利用者数により均等配賦しています。

成果報告書

- バス運行経費

市政年報 p.127 に計上された各運行費(バス用消耗品費、バス用燃料費、バス修理費、手数料、保険料、公課)を各路線の年間走行距離に応じて配賦しています。

- 更新引当金繰入額

各路線で利用されるバス車両の取得原価と取得年から耐用年数を 5 年として計算しています。

- 地方バス路線維持対策費

民営のバス路線を維持するために民間バス会社に支払っている金額 58,329,282 円を、各路線の年間走行距離に応じて配賦しています。

また本年度より黒羽地区においてデマンド交通を導入しました。デマンド交通の運営は、山和タクシー有限会社が 10 人乗りワゴン型車両 3 台により運営しています。大田原市は、受益者負担 908,750 円を経費から差引いた赤字分 24,838,407 円を山和タクシー有限会社に補助金として支出しています。これにより、南方線、両郷線、片田線、寒井・松木沢方面循環線の 4 路線が廃止になりました。

コスト負担の部

- 現金収入

平成 25 年度 市政年報 p.128 使用料収入内訳の路線収入を転記しています。利用の際に現金を支払う利用者からの収入を計上しています。

- 定期利用配賦額

平成 25 年度 市政年報 p.128 の各路線の各使用料から全路線乗車状況中の乗車人員数が所定の運賃を払ったとして得た金額から、実際の路線収入を差引いた金額を定期券・回数券利用の割引利用分として各路線に配賦しました。

- 路線収入

現金収入と定期利用配賦額との合計額です。

参考 公共交通(平成 22 年度)

成果報告書 公共交通事業の市バス (参考 平成 22 年度)

成果報告書

成果報告書 公共交通事業の市バス（参考 平成 22 年度）

成果説明の部

大田原市営バスは、15 路線を運行しています。平成 22 年度の年間利用者数は約 78 万 5 千人、運行収入は約 1 億 2 千万円となっており、通勤や通学、通院、買い物等、地域住民の足として、多くの方々が利用しています。今後、地域の需要に応じた交通モードの再編や、バス停での誤乗車を防止するために、わかりやすく、利用しやすい車両の整備と、安心して利用できるための情報提供の充実などが求められています。

成果指標			市民の負担が 少ない路線 ²	市民の負担が 大きい路線	
	路線	15 路線合計	路線平均		
			那須 塩原駅線	湯津上線	
一日あたり				単位:人	
利用時支払者		537	36	185	49
定期利用者		1,613	108	480	76
利用者数計		2,150	143	665	125
通学定期利用校				国際医療福祉大学	
受益者 1 人あたり					単位:円
受益者負担		154	154	170	165
市民の負担		232	232	35	634
コスト説明の部					
発生コストの部					単位:円
市営バス運行費計		302,737,140	20,182,476	34,771,631	37,031,914
コスト負担の部					
受益者負担		121,017,800	8,067,853	41,160,082	7,527,322
市民の負担		181,719,340	12,114,623	8,396,761	28,909,748

端数処理をしているので合計額は必ずしも一致しません。

各路線の明細は次ページ以降に掲載します。

²通学バスとして利用されている須賀川線、雲巖寺線、両郷線、南方線、片田線、寒井・桜木沢方面循環線は除いています。

参考 公共交通(平成 22 年度)

路線	那須 塩原駅線	大田原市 内循環線	黒羽線	湯津上線	那須 塩原線
利用者					
大人	27,016	42,959	18,276	12,665	5,571
高校大学生	210,116	50,054	127,425	26,709	16,751
小中学生	740	1,588	2,425	1,461	452
高齢者	4,788	4,168	6,661	4,771	2,419
利用者合計	242,660	98,769	154,787	45,606	25,193
一日あたり利用者数					
現金支払者	185	121	98	49	17
定期利用者	480	150	326	76	52
利用者数合計	665	271	424	125	69
全市民に対する割合	0.902%	0.367%	0.575%	0.170%	0.094%
通学定期利用校	国際医療 福祉大学	大田原女子 高等学校	国際医療 福祉大学 黒羽高等学校	国際医療 福祉大学	黒羽高等学校
市バス利用毎のコスト負担					
受益者負担	170	173	165	165	161
市民の負担	35	163	106	634	505
競合する民間路線			東野交通	東野交通	
コスト説明の部					
発生コストの部					
					単位:円
生活環境課 人件費	650,371	650,371	650,371	650,371	650,371
運行業務委託費	18,998,018	8,710,057	9,553,825	8,201,872	8,071,807
バス運行経費	17,816,367	15,448,633	4,739,791	4,422,748	4,623,061
更新引当金繰入額	10,551,212	6,851,569	3,491,488	112,889	3,433,382
工事請負費	1,540,875	1,540,875		1,540,875	
地方バス路線維持対策費			23,517,000	21,508,315	
市営バス運行費計	49,556,843	33,201,506	41,952,475	36,437,070	16,778,622
コスト負担の部					
現金収入	13,507,000	8,803,100	7,146,400	3,591,000	1,267,100
定期利用配賦額	27,653,082	8,322,750	18,371,962	3,936,322	2,795,133
路線収入	41,160,082	17,125,850	25,518,362	7,527,322	4,062,233
市民の負担	8,396,761	16,075,656	16,434,113	28,909,748	12,716,388

端数処理をしているので合計額は必ずしも一致しません。

成果報告書

路線	急行 福祉大線	野崎方面 循環線	金田方面 循環線	佐久山・親園 方面循環線	須賀川線
利用者					
大人	2,127	7,420	2,811	2,001	371
高校大学生	59,165	1,891	883	4,213	749
小中学生	20	496	4,718	658	20,600
高齢者	111	4,319	3,355	3,115	433
利用者合計	61,423	14,126	11,767	9,987	22,153
一日あたり利用者数					
現金支払者	17	16	8	8	5
定期利用者	151	22	24	20	56
利用者数合計	168	39	32	27	61
全市民に対する割合	0.228%	0.053%	0.044%	0.037%	0.082%
通学定期利用校	国際医療 福祉大学				黒羽中学校
市バス利用毎のコスト負担					
受益者負担	164	150	116	141	88
市民の負担	185	865	832	1,150	341
競合する民間路線					
コスト説明の部					
発生コストの部					
生活環境課 人件費	650,371	650,371	650,371	650,371	650,371
運行業務委託費	17,223,405	8,021,316	8,029,636	8,005,867	6,001,593
バス運行経費	2,671,807	2,112,554	2,351,977	2,204,098	2,793,266
更新引当金繰入額	917,333	2,009,657	112,889	2,041,623	57,333
工事請負費		1,540,875			
地方バス路線維持対策費					
市営バス運行費計	21,462,916	14,334,774	11,144,873	12,901,960	9,502,564
コスト負担の部					
現金収入	1,255,500	1,187,500	603,200	568,600	369,900
定期利用配賦額	8,836,870	927,486	756,380	843,498	1,570,197
路線収入	10,092,370	2,114,986	1,359,580	1,412,098	1,940,097
市民の負担	11,370,546	12,219,787	9,785,293	11,489,862	7,562,467

参考 公共交通(平成 22 年度)

雲巖寺線	両郷線	南方線	片田線	寒井・桧木沢 方面循環線	合計
1,512	1,588	117	383	331	125,148
3,556	20	275	94	42	501,943
10,277	19,206	7,571	25,777	22,182	118,171
2,427	1,151	473	972	334	39,497
17,772	21,965	8,436	27,226	22,889	784,759
5	3	0	2	2	537
44	57	23	72	61	1,613
49	60	23	75	63	2,150
0.066%	0.082%	0.031%	0.101%	0.085%	2.918%
黒羽中学校	黒羽中学校	黒羽中学校	黒羽中学校	黒羽中学校	
107	88	85	83	83	154
667	320	860	384	445	232

単位:円

650,371	650,371	650,371	650,371	650,371	9,755,567
5,938,902	6,007,672	5,823,621	5,939,873	5,876,597	130,404,060
2,968,674	2,246,350	1,437,711	1,924,772	1,356,729	69,118,538
4,192,038	57,333	57,333	4,192,038	4,192,038	42,270,160
					6,163,500
					45,025,315
13,749,985	8,961,726	7,969,036	12,707,054	12,075,736	302,737,140
341,400	250,100	33,000	161,600	149,800	39,235,200
1,558,325	1,690,364	681,697	2,092,660	1,745,875	81,782,600
1,899,725	1,940,464	714,697	2,254,260	1,895,675	121,017,800
11,850,261	7,021,262	7,254,339	10,452,794	10,180,060	181,719,340

端数処理をしているので合計額は必ずしも一致しません。

成果報告書

成果報告書 数値の参照元等

成果説明の部

- 利用者数 大人、高校大学生、小中学生、高齢者

平成 22 年度 市政年報 p.51 全路線乗車状況

➤ 通学定期利用校としての黒羽中学校

本報告書の対象とした平成 22 年度において黒羽中学校を通学定期利用校としている路線（須賀川線、雲巖寺線、両郷線、南方線、片田線、寒井・桧木沢方面循環線）は、黒羽中学校の通学バスとしての併用もしました。このため、小中学の利用者数が多くなっています。

- 一日あたり利用数（端数処理をしているので合計額は必ずしも一致しません）

現金支払者数

平成 22 年度 市政年報 p.51 使用料内訳 路線収入を 365 日で除して得た値を運賃 200 円で除して算出しました。利用の都度現金を支払う利用者数です。

定期利用者数

一日あたり利用者数から支払い利用者数を差引きました。

利用者数合計

現金支払者数に定期利用者数を加算して一日あたり利用者数合計としました。

市バス利用毎のコスト負担

市バス利用者が、市バスを一回利用する毎に生じる費用を、各路線で受益者である利用者と、利用をしていない市民が負担する金額を示しています

コスト説明の部

発生コストの部

- 生活環境課 人件費:

係長の人件費を業務割合からその半分と、専従職員 1 名分の人件費を計上し各路線毎に均等配賦しました。

- 運行業務委託費

バスの運行の委託については委託会社との契約に従い該当路線へ均等配

賦しています。

また定期券・回数券の販売に係わる委託手数料および増便の委託料は、定期券利用者数により均等配賦しています。

- バス運行経費

市政年報 p.50 に計上された各運行費（バス用消耗品費、バス用燃料費、バス修理費、手数料、保険料、公課）を各路線の年間走行距離に応じて配賦しています。

- 更新引当金繰入額

各路線で利用されるバス車両の取得原価と取得年から耐用年数を 5 年として計算しています。

- 工事請負費

バス停に係わる費用です。発生した各路線へ賦課しています。

- 地方バス路線維持対策費

民営のバス路線を維持するためにバス会社に支払っている金額です。

コスト負担の部

- 現金収入

平成 22 年度 市政年報 p.51 使用料内訳の路線収入を転記しています。利用の際に現金を支払う利用者からの収入を計上しています。

- 定期利用配賦額

平成 22 年度 市政年報 p.51 の各路線の各使用料から全路線乗車状況中の乗車人員数が所定の運賃を払ったとして得た金額から、同ページの使用料内訳を差引いて得た金額を定期券・回数券の利用分として各路線に配賦しました。

- 路線収入

現金収入と定期利用配賦額との合計額です。